

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079800290
法人名	株式会社 田中組
事業所名	グループホーム 森の聖
所在地	福岡県築上郡上毛町大字下唐原2060-15
自己評価作成日	平成29年7月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成29年9月20日	評価結果確定日	平成30年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲を自然に囲まれホームのどの窓からも季節を感じることができる。また、広いウッドデッキがあり、気候や天気の良い日には体操やレクリエーションなどを行ったり、入居者が思い思いに自由な時間を過ごせるようになっている。中庭やウッドデッキにて入居者と職員と一緒に草花を育て、水やりや草取りなどの役割を持ち成長や開花の喜びを共有している。解放感のある施設内外にて、四季を感じながらゆっくりとした時間が過ぎる中で穏やかに、心豊かに日々を過ごしていただけるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高台に広い敷地を有し、事業所内の共用空間やウッドデッキもゆとりある広さが確保され、開放的な生活空間の中にある。敷地内の散歩を日課とする方や野菜の生育を楽しむ方、ウッドデッキでは日光浴や洗濯物干し等、日常的に戸外に出る機会が多い。医療ニーズの高い方も多く、医療機関や訪問看護事業所との密な連携を図り、日々の健康管理や早期対応に努めている。運営推進会議には、町役場担当者及び地域包括支援センター職員の出席を得ており、事業所の実状を共有し、サービスの質の確保に取り組んでいるところである。表情豊かな方が多く、時ににぎやかに、時に穏やかな時間を過ごしなが、理念である「笑顔」や「いつまでも現役」を大切にした関わりに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる。「満足した日々」「その人らしさ」「笑顔を添えて」という理念を作り、玄関ホールやスタッフルームに掲示し、目に触れるようにしている。	地域密着型サービスとしての独自の理念が掲示され、「自立支援のお手伝い」や「いつまでも現役」をテーマとして日々の関わりの中で意識している。笑顔や個性が表出できる暮らしの場であることが、事業所の雰囲気から伝わる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は孤立することなく地域の一員として自治会、老人会、行事など地域活動に参加して地元の人々と交流することに努めている。	高齢化が進む周辺地域に加え、事業所は高台に位置し、近隣に民家は少ない状況である。自治会に加入し、道路愛護活動に参加したり、民生委員の方との連携を図っている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や認知症高齢者の相談に来られる様に地域住民や民生委員等に働きかけをしている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者やサービスの実際評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行いそこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議には、地域代表、民生委員、町役場長寿福祉課担当者、広域連合担当者の出席を得ており、事業所の実状を共有している。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議以外にも健康福祉課・生活保護課との連携を行い、サービス向上のための情報交換に努めている。	運営推進会議には、町役場長寿福祉課担当者、及び広域連合担当者の出席を得ており、事業所の実状を共有している。行政窓口に出向き、不明な点の問い合わせや指導を受けたり、生活保護を受給されている方も多く、ケースワーカーの方との情報共有を図っている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中鍵をかけないケアを実践している。身体拘束も行っていない。	医療ニーズの高い方も多く、つなぎ服が使用されている。状況を精査し、必要性を再検討した上で、説明と同意を取るなどの必要な手続きを行うことが必要です。また、アセスメントの充実とともに、解除に向けた視点を確保していくことも重要です。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様の所在確認を徹底すると共に、さり気ない見守りを行う等の安全面を配慮しながら自由な暮らしを支えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当事業所では、生活保護の利用者や身寄りの少ない方については、将来の事を考え成年後見制度についてお話をさせて頂いている。	成年後見制度や日常生活自立支援事業について、これまでの活用事例は無いが、運営推進会議の中で情報提供を行った経緯がある。管理者は、制度活用手続きを経験しており、必要時には関係機関との連携を図りながら支援を行う体制にある。	権利擁護に関する制度について、内外の研修実績がなく、職員が学ぶ場がないため、制度の意義や仕組みについて、研修実施が期待される。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前・入居時・退去の際は、必ず立会い十分な説明と話し合いを行い、疑問や不安が無いように努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時や電話連絡の際は、常に問い掛けやご意見が言いやすい関係作りに努め、また意見箱を設置し、自由な意見や疑問点を書けるようにしています。その疑問点や意見を運営に反映出来るように取り組んでいます。	運営推進会議の議事録を家族に送付している。不定期で事業所通信を発行し、日々の様子を写真と共に家族に伝えている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事務長や管理者が随時、職員一人一人に話を聞いている。	日々の申し送りや認知症ケア会議、日常の業務の中で、意見や提案の聴取に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事務長や管理者が年に1回、職員一人一人に面談を行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関して、年齢や性別等を理由に対象から排除していない。人柄ややる気を重視し、個々の能力が発揮できるように配慮している。	職員の採用にあたり、意欲や年長者との関わりが好きな方を重視し、年齢や性別による排除は行われていない。ギター演奏や畑仕事等、職員個々の得意分野を発揮する場面がある。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者に対する虐待がないように日頃より、虐待防止法・身体拘束の禁止等の掲示物等で意識付けを図っている。	高齢者虐待防止や看取りに関する外部研修参加、また、2ヶ月に1回、高齢者虐待防止や身体拘束、認知症ケア等について検討する機会を持ち、職員への人権教育、啓発に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今後は、行政等による研修に管理者が個々の能力に合わせ参加させたい。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者や管理者は、県内外の他事業所への訪問や連絡を行い、サービスの向上に生かしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後、密に交流を図る機会を持ち、会話や行動などの中で本人の不安や心配事・要望などを把握し、早期に対処する事により、本人との信頼関係を構築できるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族の意見や要望を尊重しケア検討会やカンファレンスなどで話し合いを充分に行い対応している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の家族の思いや本人の状態に合わせ、今必要なサービスを判断し、柔軟な対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年長者である入居者から調理の仕方や慣わしなど日々の暮らしの中で学ぶ場面は多くあり、またその場面作りに努めている。今後も学び支えあう関係を大切にしていきたいと心得ている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が来られた時声掛け、本人のホームでの生活・健康状態・身の回りのことを、話し職員との関係を築いている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の本人の生活区域へのドライブやご家族・知人等の面会時には再度の来苑のお願いを行っている。	自宅へのドライブや毎月家族の自宅で過ごす方、馴染みのカラオケ店利用等を支援している。かかりつけ医の継続を支援し、旧交を温める機会もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自分の時間を大切にしながら人と交わりを保っていけるよう努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も一定期間連絡を持ち、その後の利用者の様子を確認し、必要に応じて相談や支援に努めたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前後のアセスメントや日々の暮らしの中での関わりを通じて入居者の家族の思いや意向を把握するように努めている。	インテーク時や日常の会話、仕草、行動等から、思いや意向の把握に努めている。職員との距離感も近く、喜怒哀楽を表出できる居場所であるよう関係づくりが行われている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	グループホームにも慣れてきているようなので生活を楽しんで頂けるよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	顔の表情・行動、体の状態変化を各自職員が把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の思いや要望を大切に、ケア検討会やカンファレンス等で話し合いを充分行い具体的な介護計画を作成している。	半年毎に、モニタリング・カンファレンス・再アセスメントが実施され、現状の確認と見直しに必要性の検討に努めている。個別性と自立支援の視点確保に努めている。	身体状況のみでなく、IADLや社会とのかわり、個人因子等も含めた情報の収集と共有をもとに課題を整理し、本人本位のケアに結び付けていくことが期待されます。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に日々の暮らしの中での気づきや変化を記録し職員の間で共有しながら計画の見直し、状況の変化があった場合は随時対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況・ニーズにより、医療機関への受診や食事会・買い物等への同行など、柔軟に支援している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々による演奏会や子供神楽などを楽しんでいる。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望や状況により医療機関への受診や往診、適切な医療が受けられるよう支援している。現在三つの病院の医師に1回/2週、往診に来て頂いている。	本人の希望や必要性に応じたかかりつけ医への受診支援や、複数の医療機関より訪問診療が実施され、適切な医療が受けられるよう支援している。週3日の看護職員配置、及び訪問看護事業所より週1回の訪問があり、それぞれの看護記録が整備されている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	その日の体調状態や本人の訴えを職員・看護職共に把握に努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関への通院や往診にて利用者の健康状態が常に分かる様にしている。利用者が入院した際には週に1～2回、面会を行って病院との情報交換に努めている。現在、2つの病院から往診に来られている。往診の際には、ケアマネ・担当介護士が健康状態を報告し、医師の指示を直接仰いでいる。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居開始時から重度化や終末期の対応に関して、関係者で話し合いを行い、方針の共有に努めている。状態の変化に応じて本人・家族の意向を大切にしながら、医療機関との緊密な連携に努めている。	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について指針をもとに事業所としての方針を説明し、意向を確認している。状況の変化に伴い、関係者間の話し合いを重ね、方針の共有に努めている。看取りに関する外部研修に参加している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習は避難訓練時に消防隊の方からうけている。応急手当講習はまだ、受けてはいないが、今後は実践力を身に付ける意味でも参加したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により年2回の避難訓練を定期的に行っている。	消防署の指導のもと、年2回、夜間を想定した避難訓練を実施している。風水害や地震に対応するマニュアルを整備している。事業所は高台に位置し、災害時の地域の避難場所となっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報については十分に配慮し法令を遵守した取り扱いに努めている。入居者一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応に努めている。	個人の理解と尊重に努め、慣れあいとにならないよう管理者・職員間で注意し合っている。通信や写真帳等に関する同意は口頭で行っている。	トイレ介助の際の配慮や、個人情報に関する同意書の整備等、プライバシー確保に向けた意識の向上が期待されます。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	信頼関係が持てるように、日々の生活の中で会話やスキンシップを図り、本人の思いや希望を表しやすいような環境作りを行っている。日常的に声掛けにより本人の意思の確認を行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度スケジュールは用意しているが一人ひとりのペースを大切に希望や状況により支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしく、整髪・服装を整え身嗜みに配慮している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理に関するアドバイスや味見をして頂くなど、一人ひとりの好みや能力にあわせて、テーブルやお盆を拭き 野菜の皮むき等、参加してもらっている。	調理担当者が配置され、事業所での調理を行う日と、おかずのみ外注し、炊飯と汁物を事業所で調理する日がある。家庭菜園で採れた野菜が食卓に上ることもある。家族との外食や個別の外食等の機会もある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の好みや状況に配慮しながら、栄養バランスを考え 塩分控えめの献立を作成する。また、水分摂取を個別に記録し職員で情報を共有している。脱水症の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。うがい・歯磨き・義歯洗浄などの口腔状態や本人の能力に応じたケアを行い清潔の保持に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	2時間毎時のトイレ誘導やその利用者様の排泄パターンに合わせたトイレ誘導を行っている。	個別の排泄状況の把握に努め、出来る限りトイレでの排泄を支援している。水分や牛乳、食物繊維の摂取等を心掛け、便秘予防に配慮している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になりやすい人は医師の指示に従い、食事や水分補給、運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の基本的入浴日の設定はあるが、本人の希望や状況に合わせて個々にそった支援をしている。	週に2回程度を目標として、午前と午後に入浴を支援している。希望や体調、状況等に応じて、シャワー浴や清拭も含め、清潔保持に留意している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	静けさ・暖かさ・睡眠のための配慮、快適な睡眠への環境に努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり症状、体調の変化に気をつけ服薬に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味を活かしレクリエーションに取り入れている。施設外の散歩や家事手伝い等の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に応じてホーム内や周囲への散歩(敷地内が広く、緑豊かな環境にある。)の支援は随時行っている。遠方への外出は希望等は家族と相談して希望が叶えられるようにしている。	高台に広い敷地を有しており、敷地内の散歩を日課とされている方もおり、家庭菜園にて野菜の生育を楽しむ機会もある。夏場も早朝に外気浴を行ったり、広いウッドデッキでの日光浴や洗濯物干し等、気軽に戸外に出られる環境である。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つことの大切さは理解できるが、持つことによるトラブル(紛失:他入居者や職員に盗まれた等)の方が入居生活に支障を来すため、ご家族や施設預かりとしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望のもとで職員が電話をしたり、手紙の代筆を支援している。年に2回程、お知らせを兼ねたお手紙をご家族に出している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間やユニット間のウッドデッキは余裕をもって造られており開放感がある。緑に囲まれ穏やかな雰囲気にも包まれている。中庭や施設周囲には自然が豊富で各窓から四季の移り変わりを感じ見ることが出来る。	食堂から広いウッドデッキが見渡せ、開放感がある。廊下も広く、季節の飾りつけが行われている。菜園では茄子やゴーヤを育て、食卓を彩る機会がある。全体的に生活感があり、自由に行き来する方の姿も見られた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う同士を同じテーブルに配置し会話の機会が持てるように配慮している。リビングルーム・廊下や玄関前のフロアーにソファーや椅子を設置して折、一人で過ごすことも出来るようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆとりある各居室には、セミダブルベッドが配置されている。炬燵や筆筒など馴染みのものが持ち込まれており、その人らしく居心地の良い居室作りが行われている。	セミダブルベッドが配置され、クローゼットもゆとりある広さがある。テレビや化粧道具が持ち込まれ、生活感のある居室も多い。動線や配置等、安全面にも配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内部はすべてバリアフリーにドアはスライド式、廊下やトイレ浴室等には介助バーを設置して筋力の弱い入居者が安全に出来るだけ自立して生活が送れるようにしている。トイレや居室には名称を表示している。		